



特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

2010年度 活動報告 & 2011年度 活動計画

前年度を上回るご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

目標 4万本の植樹を達成！



苗木の世話をするデウ=パハドゥール=ガルブザさん（ベガコーラ村）

ヒマラヤ保全協会とは：世界の屋根・ヒマラヤの大自然を未来へつなぐ国際環境 NGO。ヒマラヤ保全協会（IHC：The Institute for Himalayan Conservation）は、ネパール・ヒマラヤにおいて、地域住民が主体になった植林事業に取り組んでいる国際環境 NGO です。今日までに、ヒマラヤ山麓にのべ約 80 万本の植樹をしてきました（2011 年 6 月現在）。

1. 2010 年度活動報告

1.1. 生活林づくりプロジェクト -目標 4 万本の植樹を達成！-

2010 年度は、合計 44,204 本の苗木を育成、植樹をおこないました（2011 年 6 月集計）。これで、苗木育成本数の累計は約 80 万本に達しました。事業地は、ナルチャン村・サリジャ村・ドバ村・ベガ村でした。具体的には以下の活動をしました。

- ① 苗木の種子を購入しました。
- ② そだった苗木を植林地（荒廃地）に植えました。
- ③ 苗畑等に水を供給するための水道をつくり、苗木育成を強化するとともに、村人の生活を改善しました。
- ④ 植林地を保全するための防護壁（フェンス）をつくりました。



事業地の位置図

⑤ 地盤を安定させ、村人にとって安全な土地をつくり、地すべり・土砂災害などの自然災害を防止しました。

⑥ 苗畑と森林を管理する管理人を現地で養成しました。

⑦ 苗畑委員会を組織し、森林の管理運営体制をつくり、持続的継続的な森林保全を実現しました。

⑧ 日本人の森林専門家・環境専門家を現地に派遣し、調査・指導をおこないました。

植樹した樹種は、マツ・ハンノキ・サクラ・飼料木・果樹（オレンジ・レモン）・サンショなどでした。

また、紙漉事業も推進しました。サリジャ村とナンギ村で製造したロクタ紙（ネパール紙）を、カトマンドウの工房に少量ではありますが初納品することができました。

これで、「ファンドレイジング → ヒマラヤ

保全協会の植林・森林保全活動の推進 → 計画的なロクタ紙の原材料確保 → 新商品の製造販売 → さらなる植林・森林保全活動 →」という、ファンドレイジングとネパール現地事業の一連のサイクルを動かすための第一歩を踏み出すことができました。

ヒマラヤ保全協会の活動はただ木を植えるだけの活動ではありません。木を植えながら、森林を保全し、そして、森林資源をつかって住民の生活を改善していきます。このサイクルにこそ、自然と人間とが共生できる具体的な実践形態があります。これからも、このサイクルを強化し、事業をさらに推進していきます。

1.2. ダウラギリ・プロジェクト

既存事業地の西部（カリガンダキ川の西部）のダウラギリ地域（ダグナム村・ジーン村・バランジャ村など）において、あらたに、ダウラギリ・プロジェクト（生活林づくりプロジェクトを通じた山村復興支援プロジェクト）を開始しました。

2010年度は、2～3月に、あたらしい苗畑を、ダグナム村・ジーン村・バランジャ村にそれぞれつくり、苗木の育成を開始しました。今夏からあらたな植樹ができる予定です。

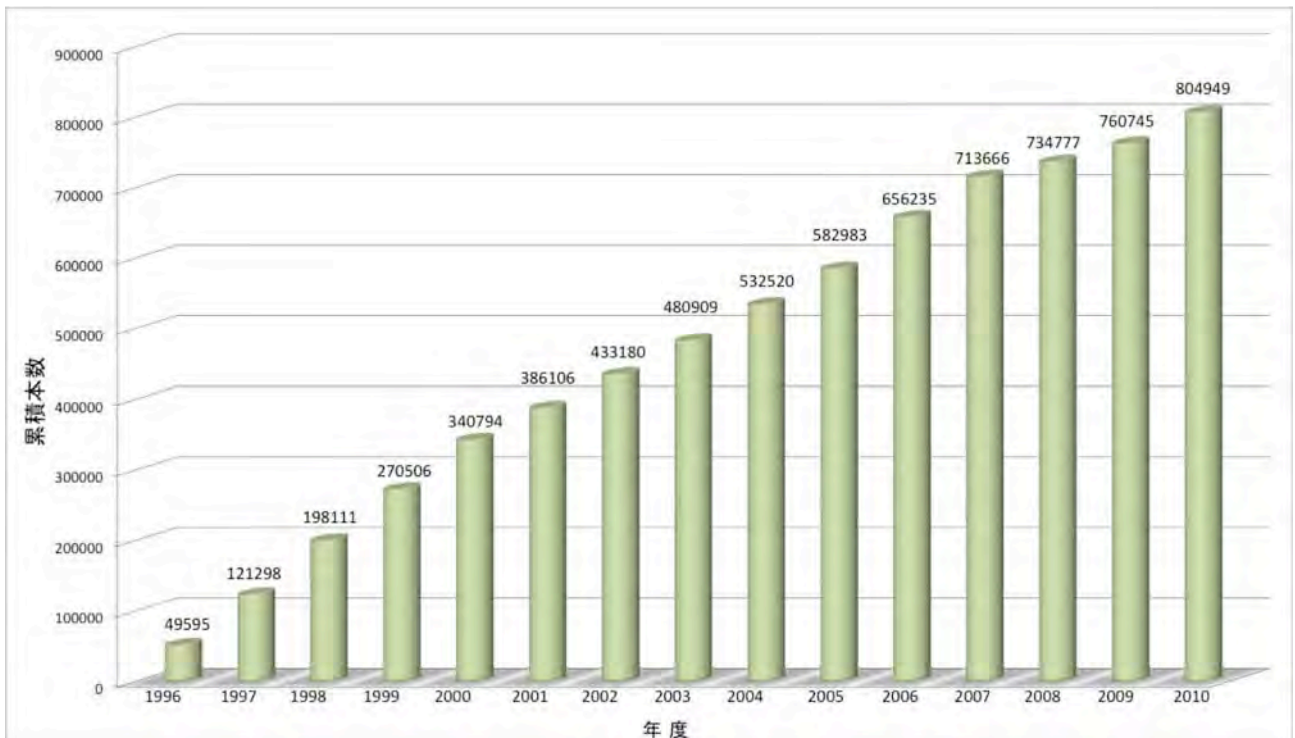
1.3. エコ・プロジェクト

ネパールでは、住民のライフスタイルの変化、観光客の流入などにより、様々なゴミが多量に廃棄されるようになっていきます。



苗畑でそだつ苗木（マツ/ドバ村）

そこで、村にゴミ箱を設置し、ゴミ集積場を建設する活動をおこないました。2010年度は、スワタ村・パウダル村・ドバ村・ベガ村においてあらたに実施しました。この活動は、（１）クリーン・ビレッジ化、（２）環境教育、（３）エコツーリズム、という３本柱を基軸にしてすすめられ、環境保全（公害防止）とともに住民の衛生管理・生活改善を実現し、地域の活性化に貢献しました。住民の生活を改善するだけでなく、観光立国ネパールのためにも重要な活動でした。



苗木育成の累積本数(2010年度に80万本を突破しました)

1.4. その他の事業

生活改善プログラムとして、ベガ村の25世帯に、金属製改良かまどを普及しました。その結果、各世帯で、薪の使用量を40~50%減らすことができました。教育支援プログラムとして、めぐまれない子供たち20人に奨学金を支給しました。環境保全専門家育成プログラムとして、ネパール人大学院生1名に奨学金を支給しました。

2. 2011年度活動計画

2.1. 生活林づくり：目標 4万5千本の植樹

今年度は、約4万5千本の植樹を目標にします。植林地域は、既存のナルチャン村・サリジャ村にくわえ、ダウラギリ地域(ドバ村・ベガコーラ村・ダグナム村・ジーン村・バランジャ村)、さらに、ソルクンプ地域カリコーラ村(ジュビン VDC)です。なお、ナルチャン村での植林活動は2011年度をもって終了します。

ヒマラヤ山村民は森林資源(薪・堆肥・家畜飼料・材木など)に大きく依存したライフスタイルをもっているため、このような取り組みは、住民の暮らしをいちじるしく改善し、特に、薪の採取・運搬において多大な労力をしいられている女性と子供たちをすくうことにもつながってきます。

また、この活動により、自然災害を軽減し人々の命を救うための防災林育成、山岳斜面の保全に関する基



村人が総出で植林地に苗木をはこぶ(サリジャ村)



植林地に苗木を植える(サリジャ村)



新植林地・カリコーラ村の位置

礎をつくることもできます。

このようなヒマラヤ山村の暮らしと命を守る活動は継続してこそ大きな成果があり、持続にこそ大きな意義があるとかんがえられます。1回限りの活動で終わらせては意味がないので、たゆまない努力を今後ともしていきます。またこれは、ネパール・ヒマラヤにおける登山・探検・国際協力の長い伝統をもつ当協会が取り組まなければならない重要な課題であり、同時にこの事業は、歴史的にみて友好親善が深いネパールと日本との関係をさらに大きく発展させることにも貢献できます。

2.2. ダウラギリ・プロジェクト

ダウラギリ地域は、長いあいだ内戦がつづいたため、よその地域に避難していた人々が多数いましたが、現在、それらの人々が本地域に帰郷しつつあり、それにともない、植林、森林保全、森林資源利用、収入向上などについての支援要請が地元から出されました。

これらの要請に対しては、ヒマラヤ保全協会の「生活林」づくりの経験と技術を活用すれば十分に応えることができます。当協会の既存事業地ですでに養成されている苗畑管理人などの人材（ネパール人）が新事業地でのプロジェクトに協力することもでき、住民みずからが主体になった、地域に根ざした山村復興を支援することが可能です。

「生活林」とは、地域住民の生活に根ざした、住民の生活に役立つ森林であり、日本でいう里山に相当するものです。ヒマラヤの山村は、今日でも森林に大きく依存したライフスタイルをもっているため、「生活林」をつくり出すことにより、薪・堆肥・家畜飼料・材木などの森林資源が住民に供給されるようになり、住民の生活がうるおいまた改善されます。他方、本事業地は、地滑りや山崩れなどの自然災害が多発しているため、その対策となる地域防災にも大きく貢献できます。さらに、森林資源を有効に活用した収入向上プログラムなどの実施により地域の活性化を実現できます。

ヒマラヤ保全協会は、カリガンダキ川東岸地域（ミヤグディ郡）において「生活林」づくりプロジェクトをすでに実施し、植林、森林保全、森林資源利用、収入向上、地域活性化の各プログラムに取り組みました。この実績をカリガンダキ川西岸域のダウラギリ山麓地域においても活かし、さらに発展させていきます。先のプロジェクトでは、苗畑を建設、植林を実施、森林再生と森林保全の成果が上がりました。また、森林資源の住民への供給に取り組み、これらの目標は達成されました。さらに、森林資源を有効に活用した生活改善・収入向上事業も試みましたが、これらはまだ発展途上であり、今後の展開が期待されています。



ダグナム村の苗畑管理人・ヒムラム=ガルブザさんを指導する、ヒマラヤ保全協会ネパールのフィールドスタッフ・チトラ=ブンさん

ダウラギリ・プロジェクトの具体的な活動は以下の通りです。

苗畑運営

- ① 森林委員会の下に苗畑委員会を組織、苗畑管理人を決めます。
- ② 自主的に委員会を運営できるように活動計画をつくります。
- ③ 苗畑管理人を養成するための研修を実施します。
- ④ 植林計画をつくり、樹種を選定、種子を購入します。
- ⑤ 資機材を購入して苗畑(インフラ)を建設、拡充していきます。



ダウラギリ（8167m）と新プロジェクト地・ジーン村

- ⑥ 苗畑管理人が中心になって苗畑で苗木を育成します。
- ⑦ 水源を確保し、給水施設を建設、配水します。
- ⑧ 苗畑委員会を定期的にひらき、持続的に苗畑を管理運営します。

植林活動

- ① 適切な植林地を調査・選定します。
- ② 動物の食害から苗木をまもるフェンスをつくります。
- ③ 植林地に村人が苗木を植樹します。
- ④ トレイル（山の道）を建設します。
- ⑤ 森林委員会・苗畑委員会が中心になって森林の管理体制をつくります。
- ⑥ 住民が参加するトレーニングをおこないます。

これらの活動により、苗畑ができ、苗木を継続して育成する体制ができあがります。また、森林を保全しつつ、森林資源が住民に供給される道を切りひらくことができます。こうして、地域の自然環境が保全され、それをいかした生活改善が実現されていきます。

樹木園（arboretum）の建設

- ① 地域の希少植物と生態系を保全するために、バランジャ村の植林地の一角に樹木園を建設します。
- ② この樹木園で、住民や学校の生徒が地域の植生や自然環境についてまなびます。



荒廃がすすむヒマラヤの山岳斜面（ベガコーラ村）

生活林プロジェクト・植樹計画（案）

地域		活動項目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
アンナプルナ	ナルチャン村 サリジャ村	苗畑拡充		→					
		苗畑維持・管理							→
		植樹&本数	20,000	30,000	20,000	15,000	10,000	5,000	5,000
ダウラギリ	ドバ村 ベガ村	事前調査	→						
		苗畑建設		→					
		苗畑拡充			→	→			
		苗畑維持・管理							→
		植樹&本数			20,000	15,000	15,000	20,000	20,000
		事前調査			→				
	ダグナム村 ジーン村 バランジャ村	苗畑建設				→			
		苗畑拡充						→	
		苗畑維持・管理							→
		植樹&本数				5,000	20,000	20,000	25,000
		事前調査	→						
		苗畑建設					→		
ソルクンプ (エベレスト)	カリコーラ村	苗畑拡充						→	
		苗畑維持・管理							→
		植樹&本数				10,000	10,000	15,000	20,000
		事前調査	→						
		苗畑建設					→		
		植樹&本数							
植樹本数合計			20,000	30,000	40,000	45,000	55,000	60,000	70,000
植樹本数累計			730,000	760,000	800,000	845,000	900,000	960,000	1,030,000

☆ 2014年度に、ヒマラヤ植樹 100 万本達成をめざします！

- ③ 地域の自然環境に関する住民の意識を高めます。
- ④ アグロフォレストリーの試験場としても機能させ、果樹の育成などにとりくみ、将来の収入向上プログラムにむすびつけます。
- ⑤ 管理小屋を建設します。

2.3. 生活改善プログラム

昨年度にひきつづき、ベガ村において、金属製改良かまどの普及をおこないます。本年度は 25 世帯に設置します。これにより、かまどの熱効率が上がり、薪の使用量を各世帯で 40～50%減らすことができます。したがって、森林保全に貢献するとともに、薪運搬量をへらせるので労働の軽減にもなります。また、煙突も設置するので煙が室内に充満することがなくなり健康にもよいです。調理時間も短縮できます。



拡充をすすめる苗畑（ジーン村）



苗畑管理小屋で作業をする管理人のヒラ=バハドゥール=ブダトキさん

解説「世界の屋根・ヒマラヤの成り立ち」

世界最大の地形的高まりがモンスーンを生みだしている

ヒマラヤ山脈は、東西延長 2400km、幅 150～250km の弧の形をした山脈です。日本列島とほぼ同じ大きさであり、北海道の宗谷岬から九州の佐多岬までがすっぽり入ってしまうサイズです。

多くの皆さんが、ヒマラヤは、氷と雪に一年中おおわれているとおもいがちですが、それは高地のみであり、実際には、北緯 27°～35° に位置し(日本でいうと屋久島から沖縄の間にあり)、ヒマラヤ山脈の大部分は亜熱帯から温暖帯の気候下に位置しています。

いうまでもなくヒマラヤ山脈は世界最大の地形的高まりであり、それが、対流圏(高さ 12km まで達する)につきだした巨大な障害物となり、ジェット気流や偏西風のような大気の流れに大きな影響をおよぼしています。その結果、ヒマラヤを境にして、乾燥した西南アジアと湿潤な東南アジア(モンスーン・アジア)が出現し、ヒマラヤ南麓は降水が多く多雨地帯となっています。



タンポチェからエベレスト(8848m)をのぞむ

ガンジス平原、レッサーヒマラヤ、グレートヒマラヤ (タライ、パハール、ヒマール)

ヒマラヤ山脈は、ガンジス平原の北側にそびえています。その南縁には、標高 150m から 1200m の シワリークヒル(シワリーク丘陵)があります。そのすぐ北側には、標高 1000m から 3000m の レッサーヒマラヤがあり、これは、マハバーラト山脈(2000m から 3000m の山々)とその背後にひろがるミッドランドから構成されます。そして、レッサーヒマラヤの北側(背後)に高くそびえたっているのがグレートヒマラヤであり、エベレスト、アンナプルナ、ダウラギリといった 8000m 級の山々が峰をつらね、まさに「世界の屋根」を形づくっています。

ネパール人達は伝統的に、ガンジス平原を「タライ」、レッサーヒマラヤを「パハール」、グレートヒマラヤを「ヒマール」とよんでいます。

大陸の衝突によりヒマラヤ山脈が形成された

地球上では、プレートテクトニクスにより大陸の移動がおこっています。大陸をのせたプレートが移動して沈み込みをつづけていると、いつかは大陸と大陸の衝突がおこります。たとえば、オーストラリア大陸は、インド-オーストラリアプレートの一部として、現在、年間 7 cm の速度で北上しており、5000 万年後にはアジア大陸に衝突すると予測されています。

インド亜大陸も同じインド-オーストラリアプレートに属しており、約 5000 万年前にユーラシア大陸に衝突しました。そのときにできた地形的な高まりがヒマラヤ山脈です。この山脈は衝突型造山帯とよばれます。

かつてのインド亜大陸とユーラシア大陸の間にはテチス海という広大な海がひろがっていました。テチス海の海洋プレートと堆積物は、大陸の衝突により、インド亜大陸の縁辺部にのりあげ、ヒマラヤ山脈の地層を形成しています。ヒマラヤ山脈から海洋性生物の化石が産出し、ヒマラヤがかつては海だったといわれるのはこのためです。

ヒマラヤの環境破壊がすすむ

さて、ヒマラヤ保全協会の事業地は、いずれも**レッサーヒマラヤすなわちパハール**に位置しています。私たちの事業地が、ヒマラヤ全体の中でどのような環境条件の下にあるのかをよく理解しておくことは重要なことです。

そこは、かつて、3～4世代前まではとてもゆたかな自然環境にめぐまれ、そこで暮らす人々は農業をいとなみ、家畜を放牧して自給自足の生活をしていました。彼らは、夏季の半年間、山地の森林や高山草地までをまんべんなく放牧で利用し、そのたくさんの家畜をつかって階段耕地を施肥し、乳製品もつくっていました。

しかし、人口が急激に増加してきたことにより、過放牧をする結果となり、また、薪や飼料の採取のために、彼らの集落にちかいところにあった森林を根こそぎ乱伐するようになってしまいました。そして、森林の自然再生能力はなくなってしまいました。この地域には一方で植林の文化は元々まったくなかったこともあり、森林はみるみる後退していき、自然環境は壊滅的に破壊され、畑は肥料切れになり、家畜の餌もなくなってきました。

このような状況の中で、私たちヒマラヤ保全協会の環境保全活動がはじまりました。

謝 辞

皆様のご支援、ありがとうございました

2010年度は、ネパール・ヒマラヤに4万本の植樹をすることができました。ヒマラヤ環境保全活動の推進とともに、地域住民の方々の生活改善に貢献して下さったサポーターの皆様のご厚意に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会 2010年度報告 & 2011年度計画

2011年8月5日発行

編集・発行所 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-5-7 シグマロイヤルハイツ 403

Tel/Fax:03-5350-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp <http://www.ihc-japan.org>